九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.
129
2024 Jul.

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学広報課
TEL:092-802-2l30　E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学学生後援会
TEL:092-802-5968　E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学同窓会連合会
TEL:092-802-2l58　E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

■編集・発行：九州大学広報課
〒819-0395福岡市西区元岡744
■Webサイト：https://www.kyushu-u.ac.jp/
■印刷：TOPPAN株式会社
■編集協力・取材：近藤耕平、永井直美
■撮影：TOPPAN株式会社
■デザイン：株式会社G&N

◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報課までご連絡願います。
◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。

［表紙撮影協力：九州大学水泳部］

特集1
九大から新たに生まれた社会実装を加速する
九大OIP株式会社

特集2
法文学部創立100周年！“文系博士”の実態

［ COVER／躍動 ］
九州大学水泳部

総長の「愛用品」



石橋達朗

2024.5.9

このコーナーでは、総長への取材をもとに、総長個人としての思いやこだわりなど、プライベートな一面をリアルなエピソードとともにお伝えします。



欠かせない相棒

発

明王エジソンの胸ポケットには、いつも短い鉛筆が入っていて、多くの発明のアイデアは、この鉛筆から生まれたと言います。ところで、総長の胸ポケットにいつも入っているのは、手のひらサイズの黒革のシステム手帳です。もう20年以上愛用されているとか。「小さいから持ち運びに便利だし、仕事中にササッと書き込めるのが気に入っているんだよね。秘書も知らない会食や、プライベートの予定をこれで管理しているから無くしたら大変だよ」。さらに、この手帳とセットで愛用しているのが、海外で購入したという老舗ブランドのシャープペンシルです。消えかかった名入れの文字から使い込まれているのがよくわかります。クリップとキャップトップが共に18金のものは希少らしく、ボールペンも購入したとのこと。「モノにこだわりがあるほうではないけれど、この手帳とシャープペンシルは愛用しているんだよね。身に着けておかないと不安になる」。特にシステム手帳は、いつもそばに置いておきたい欠かせない相棒になっているようです。愛用品にこそ、その人らしさが映し出されると言われます。本質的にシンプルでありながら、深みのある総長の人となりを、まさに形づくる愛用品でした。

INFORMATION

8月1日（木）

大学院 人文情報連係学府（仮称・設置認可 申請中）

学際シンポジウムシリーズ「接続する人文学」

人文情報学に関する一連のシンポジウムを開催します。また、2025年4月開設準備中の人文情報連係学府の説明会も開催します。
※説明会のみ参加も可

人文学に、新たな翼を。

時間

■13:00〜16:00「地理・歴史データを作る・使う」
■16:00〜17:00 大学院説明会

9月16日（月・祝）【会場】アクロス福岡シンフォニーホール

九州大学「第九」日本人初演100周年記念事業

第九特別演奏会

1924年に本学の学生オーケストラである九大フィルはベートーヴェン作曲の交響曲第9番を日本人で初めて演奏しました。日本人初演100周年を記念して、九大フィルと有志からなる合唱団で「第九」全曲とともに100年前当時の演奏を再現します。

「第九」日本人初演100周年記念事業

時間など

■開場：13:00 ■開演：14:00 ■指揮：鈴木優人
【曲目】ベートーヴェン/交響曲第9番ニ短調「合唱付き」ほか

CONTENTS

九大広報 KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE Vol.129 / 2024 Jul.

01 ［九大の舞台裏］ 総長の「愛用品」

03 ［特集1］ 九大から新たに生まれた社会実装を加速する 九大OIP株式会社

07 ［特集2］ 法文学部創立100周年! “文系博士”の実態

09 ［躍 動］ 九州大学水泳部

11 世界から九大へ 九大から世界へ

13 現役九大生 >>> 卒業生インタビュー

15 クローズアップ九大 知られざる貴重な資料の宝庫

18 ［Museum Report］ 箱崎だより 「動物剥製資料開示室の標本資料」 —ニホンアシカの剥製—

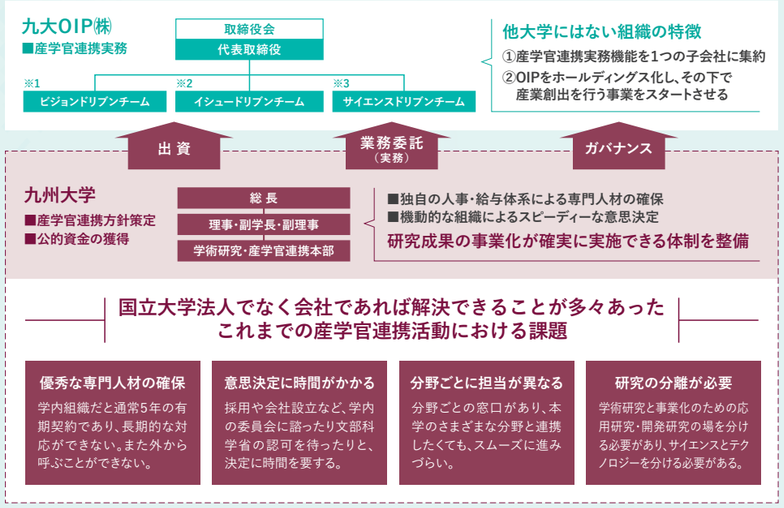
19 Connect with Alumni

21 九州大学基金

九大から新たに生まれた社会実装を加速する 九大OIP株式会社

「総合知で社会変革を牽引する大学」を目指す九州大学。その実現に向けて、この春、学内の産学官連携組織であったオープンイノベーションプラットフォーム（以下、OIP）を子会社化し、九大OIP株式会社を設立しました。なぜ今、外部法人化なのか。法人化することで何ができるのか、同社代表取締役に就任した大西教授と、コーディネーターのお二人にお話を伺いました。

■産学官連携活動の先にある産業や雇用の創出を目指してOIPを外部法人化



国立大学法人でなく会社であれば解決できることが多々あった これまでの産学官連携活動における課題

優秀な専門人材の確保
学内組織だと通常5年の有期契約であり、長期的な対応ができない。また外から呼ぶことができない。

意思決定に時間がかかる
採用や会社設立など、学内の委員会に諮ったり文部科学省の認可を待ったりと、決定に時間を要する。

分野ごとに担当が異なる
分野ごとの窓口があり、本学のさまざまな分野と連携したくても、スムーズに進みづらい。

研究の分離が必要
学術研究と事業化のための応用研究・開発研究の場を分ける必要があり、サイエンスとテクノロジーを分ける必要がある。

なぜ今、外部法人化なのか。九州大学が目指す産学官連携とは

―本年4月1日に「九大OIP株式会社」が設立されました。設立の経緯をお聞かせいただけますか。

大西　OIPはオープンイノベーションプラットフォームの略で、学内に点在する産連組織を統合し、産学官連携機能を強化することを目的に、2022年、九州大学の学内組織として設立されました。それから約2年活動してきて、共同研究や知的財産権の収入額や、大学発スタートアップの創出件数など、九州大学が掲げた産連目標の達成は見えてきました。しかし、共同研究やスタートアップはあくまで手段でしかありません。九州大学が目指すべきところは、その先にある新たな産業や雇用の創出です。そう考えたとき、OIPが学内の組織のままでは達成が難しいと考え、法人化という形をとりました。

―法人化すると何が変わるのですか。

大西　一つはスピードです。学内組織の場合、計画を遂行するためには委員会による合意形成が必要です。そうすると、どうしても意思決定に時間がかかります。もちろん、議論をすることは大切です。そうすべき案件はしっかり議論しますが、「トライ&エラー」を繰り返すほうが圧倒的にアウトプットの良いものもあります。そうした案件は、機動的に動ける会社組織でスピーディーに意思決定を行い遂行するほうが良いのです。もう一つは人材です。学内で採用すると5年の有期雇用になりますので、高度人材の定着が難しくなります。しかし、法人であれば正社員として雇用でき、期限がありません。雇われるほうも安心して働くことができますし、キャリアパスも見えてきます。

―安部さんと秋柴さんは法人化に伴って、九州大学の雇用（有期）から九大OIPの正社員になられたと聞きましたが、どのように思われていますか。

秋柴　アカデミアでは有期雇用はよくあることなので、大学に応募するときはあまり問題ではないかなと考えていました。しかし、将来を考えるうえではやはり無期雇用の方が良いですし、特に知財を担当する立場から考えても、正社員になってよかったと思っています。理由は、特許が成立するまでに時間がかかるからです。一般的に3年から5年かかりますので、有期雇用だと出願したタイミングによっては、特許が成立するまで見届けることができません。しかし、正社員であれば、出願から成立まで携わることができますから、やはりモチベーションが違います。

安部　私は、今一緒に働いている人たちと、この先もずっと仕事ができると思うとうれしいですね。今までに感じたことのない安心感があります。



新会社の概要

会社名　九大OIP株式会社　Kyushu University Open Innovation Platform Co., Ltd.
株　主　国立大学法人九州大学（100%出資・完全子会社）
設　立　2024年4月1日
所在地　【本社】福岡市西区九大新町5-5 いとLab+ 研究開発棟111号室
役　員　【代表取締役】大西 晋嗣（副理事）
【取締役】福田 晋（理事・副学長）、佐々木 一成（副学長）、高田 仁（教授）
【監査役】片岡 之総（理事）
従業員　40名
事　業　受託事業：大学産学官連携の実務（共同研究、知財、ベンチャー創業支援、リカレント事業など）
自主事業：開発法人、イノベーションチャレンジファンド、リカレント事業

WEBサイト



九州大学 副理事（産学官連携担当）
学術研究・産学官連携本部
本部長補佐／教授
大西 晋嗣（おおにし しんじ）

2003年、京都大学大学院農学研究科を修了。07年、関西TLO株式会社入社、13年から18年まで代表取締役社長。2020年、九州大学学術研究・産学官連携本部教授に就任。同年10月より九州大学副理事（産学官連携）。24年4月より九大OIP株式会社・代表取締役。



九大OIP株式会社
コーディネーター
秋柴 美沙穂（あきしば みさお）

博士（薬科学）。京都大学で学位取得後、ドイツ・ヘルムホルツ研究所にてポスドクとして研究に従事。2021年より九州大学OIPサイエンスドリブンチーム学術研究員。大学知財の権利強化・ライセンス活動に取り組む。24年6月より現職。



九大OIP株式会社
准主幹コーディネーター
安部 英理子（あべ えりこ）

博士（農学）。九州大学で学位取得後、国内のさまざまな大学にて、ライセンス業務や知的財産マネジメント業務を中心に、技術移転業務に携わる。2023年より九州大学OIPサイエンスドリブンチーム研究推進准主幹。大学知財の権利強化・ライセンス活動に取り組む。24年6月より現職。

※1 ビジョンドリブンチーム
ビジョンドリブンチームの主な役割
- 新規事業開発
- 開発法人の設立・運営　など

※2 イシュードリブンチーム
イシュードリブンチームの主な役割
- 共同研究などの組成
- プロジェクトマネジメント
- 技術相談　など

※3 サイエンスドリブンチーム
サイエンスドリブンチームの主な役割
- 技術移転に関する活動
- 特許などの知財の管理・活用
- ベンチャー創業支援　など

ところでお二人は、どのような経緯で九州大学のOIPに採用となったのですか。

安部　私は関西で仕事をしていましたが、福岡出身でいずれは地元に戻りたいと思っていましたので、九大が産学官連携組織を作ると聞いて、福岡に戻る良い機会だと思いジョイン（参加）させてもらいました。

秋柴　私は、九大に採用される前はドイツの研究所でポスドクとして働いていました。次のキャリアについては、以前から興味があった大学の産学官連携の仕事に就きたいと思っていたので、たまたま募集記事をネットで見つけて応募しました。

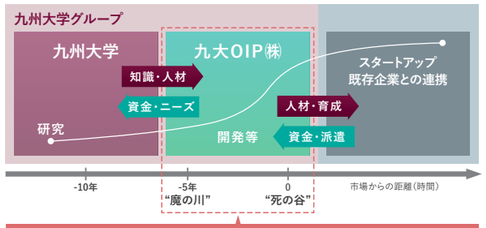
大西　ドイツから、郵送で履歴書が届いたので驚きましたよ（笑）。オンラインで面接をして即採用しました。その後、ラオスで10年以上実績を積んだコーディネーターもジョインして、優秀な人材が集まってくれました。法人化したことによって、人材獲得や育成のあり方はさらに変わると思います。今後が楽しみです。

従来難しかった事業化の領域を九大OIPが担い産業を創生

―一般的に研究開発から事業化に至るまでには、3つの壁があると言われますが、九大OIPは、どの段階をコーディネートされているのですか（図1参照）。

大西　基礎的な研究と製品開発を隔てる壁、いわゆる「魔の川」を乗り越えることは、産学官連携において大変重要で学内組織のときから力を入れてきました。安部さんや秋柴さんの仕事の領域です。しかし、その次の開発から事業化に至る領域は、サイエンスでなくなるため、学内の産学官連携が携わることが難しく、どこかに託すしかありません。とはいえ、製品化には時間がかかります。開発リスクが高く、企業も簡単には動いてくれません。そこで、今後はその領域も九大OIPがサポートしていきます。

図1



事業化までに経験する2つの難所を九大OIP㈱がサポート

事業化に至るまでの3つの壁（社会実装の過程における難所のこと）
①**魔の川**：基礎的な研究段階と具体的な製品開発の段階を隔てる壁。研究結果が製品開発に結びつかないことも多く、事業化の5年ほど前に経験することが多い
②**死の谷**：製品化から事業として発展させる事業化へと進む段階に立ちはだかる壁。事業化してすぐに直面する難所であり、収益が得られるまで時間を要し、大きな資金調達が必要となる
③**ダーウィンの海**：事業化から事業成功までの間にある壁

―そのことで九大が得られるものは。

大西　製品化までのスピードが上がり、今まで以上に社会実装の数が増えると思います。雇用も生まれ、産業が活性化し「社会変革を牽引する」という九大のミッション達成に近づきます。また、社会実装に向けた多くのケーススタディが生まれますから、研究者はもちろん、自治体や地元経済界からの期待も大きいです。

知財の専門家が特許出願から企業への営業活動までサポート

―コーディネーターは具体的にどのようなことをされているのですか。

安部　私たちは知的財産の観点から、発明やアイデアを製品化するためのコーディネートを行っています。コミュニケーションの始まりは特許ですね。大学の研究者から発明やアイデアの特許を取得できるかと相談を受けるので、そこから内容を確認し事業化に向けて戦略を考えます。

秋柴　研究者が特許の相談に来られるときは、研究を実用化したい、企業に活用してほしいなど、既に目的をお持ちの場合が多いですね。





安部　ただ特許出願には費用がかかります。全ての発明のリクエストに応えるのは難しいので、まずは発明を活用してくれるところがあるか、私たちが直接企業に話を聞きにいきます。そこでいただいた意見は特許出願の判断に使いますが、足りない部分もありますので、出願の準備をしつつ、どのようにして足りない部分を埋めていくかを考えます。特許出願後は、権利獲得のために動きながら、発明を活用してくれる企業を探します。知財の専門家が営業活動まで行うのは、当社のユニークなところだと思います。

大西　九州大学はライセンス獲得にも力を入れており、全国の大学における知的財産権の収入で2020年度は全国2位、それ以降も毎年上位を占めています。特許を取得し製品化が実現した場合、その売り上げの数パーセントが大学に入る契約が多いので、知的財産権の収入は、九大の研究成果が社会に活用されているという指標にもなっています。



将来はホールディングス化し、高度人材の仕事創出を目指す

―コーディネーターとして法人化に期待することは。

安部　法人化されて、専門領域だけでなく全学を見るようになりましたので、ある異なる分野の先生方の研究を融合したら面白いものができるのではないかといった話が、既にコーディネーターから出ています。個人的には、私たち知財のチームだけではなく、他のチームとも協力して仕事をできるのが楽しみです。また、学内の組織の場合、雇用されたセクションの領域内での仕事でしたが、今後は部署異動などで、新しいキャリア形成ができるチャンスがあるかもしれません。事業を立ち上げたり、新しい会社を作ったり、さまざまな業務に携わることができればと思っています。

秋柴　私は、自分の業務とは直接関係ないですが、法人化を機に、有志でポッドキャストチャンネルを開設しました。九大OIPが何を行っているのかわかりやすく伝え、研究者の方をはじめ多くの方に九大OIPという産学官連携組織があることを知ってもらい、私たちの仕事にも興味を持っていただきたいと思っています。

九大OIP株式会社の
ポッドキャスト番組
『知ノベーション』
最先端の研究成果を
音声で発信！



WEBサイト

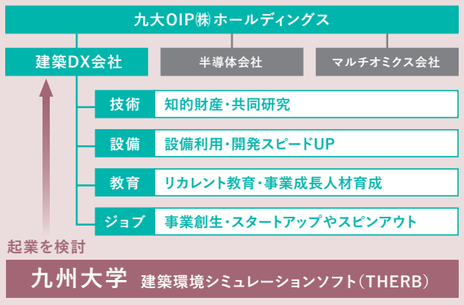
―最後に、九大OIPの今後のビジョンをお聞かせください。

大西　現在、「いとLab+（いと・らぼ・ぷらす）」の研究棟に入っていますが、将来は、このサイエンスパークを4倍ぐらいに広げて、1000人規模の会社を作りたいと思っています。九大OIPをホールディングス化し、その下に建築DXや半導体などの事業会社を作る予定です（図2参照）。バリューチェーンを構成する周辺の会社も集め、産業創生の最大化を図ることで、「東京でなくても研究を活かせる仕事が伊都にある」という当たり前の環境を築きたいと考えています。現在、一緒に働く仲間を募集中です。サイエンスに興味があり、新しいことに挑戦したい人はぜひ連絡ください。一緒に社会変革を実現しましょう。



この取材は2024年5月30日、いとLab+ 研究開発棟111号室で行いました。

図2



建築DXによる地域創生

建築DXとは、建築業界にデジタル技術を取り入れることで、現在抱えている課題の解決を目指す取り組み。

九州大学には、日本で唯一の建築環境シミュレーションソフトを開発した人間環境学研究院の尾崎 明仁教授がおり、尾崎教授の建築環境シミュレーション（THERB）は、建築全体（多数室）の熱・水分・空気移動の連成計算が可能であり、国土交通大臣により認定されたソフトである。尾崎教授以外にも九州大学には建築DXの専門家が在籍しており、今後更なる技術を生み出す可能性を秘めている。

一方で、日本の建築会社にDX人材がほとんどおらず、現状で尾崎教授のソフトを使いこなせる会社は、ほとんどない。

そこで九大OIP株式会社は、技術・設備・教育・ジョブを作ることができる建築DXの会社の起業を検討し、九州の建築業界の活性化にはつなげようとしている。

今後も目が離せない九大発スタートアップ

九州大学から、これまで170社以上のスタートアップが誕生しています。分野もさまざまで、人工衛星による地球のリアルタイム観測や、次世代型有機ELの開発、カイコのタンパク質を利用したワクチン開発、AIを活用した病理画像診断解析システムの開発など、多様な企業が活躍しています。

九州大学は今、OIPを外部法人化し「九大OIP株式会社」を生み出したことで、より迅速に研究成果の社会実装を実現できる大学となりました。今後も多くの九大発スタートアップの誕生・活躍にご期待ください。

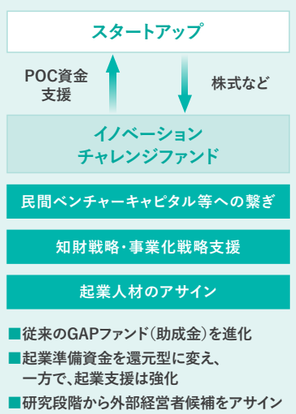


2024年5月の記者会見にて九大発スタートアップ「JCCL」の製品化を発表した様子

九大OIP㈱の役割　既存の産連支援機能であるOIPに加えて、2つの事業を展開

■教育・研究への還元（貢献）　■大学を取り巻くコミュニティの形成（高度人材のジョブの創出）

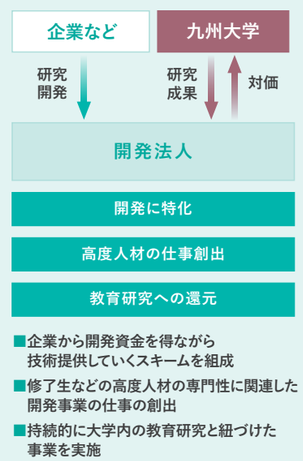
イノベーションチャレンジファンドから、POC（Proof of Concept）資金などで起業を支援する。POCは、起業するにあたりアイデアや技術が実際の市場で実現できるか確認するための検証であり、リスクの低減が見込める。事業が成功すると、株式などの形で還元され、新たなイノベーションチャレンジファンドとして活用する好循環が生まれる。



- ■従来のGAPファンド（助成金）を進化
- ■起業準備資金を還元型に変え、一方で、起業支援は強化
- ■研究段階から外部経営者候補をアサイン



開発法人は、九大OIP株式会社からの出資、九州大学から研究成果の提供、企業などからの研究開発資金を受け、事業実施を支える。開発法人が得た資金は、九大OIP株式会社や九州大学に還元され、大学の資金獲得にも貢献する。



- ■企業から開発資金を得ながら技術提供していくスキームを組成
- ■修了生などの高度人材の専門性に関連した開発事業の仕事の創出
- ■持続的に大学内の教育研究と紐づけた事業を実施

特集2

法文学部創立100周年！ “文系博士”の実態

現在の文系学部の前身となる九大法文学部は2024年で創立100周年を迎えます。今回は、九州大学人社系博士課程の4名の先輩に、広報課学生スタッフが取材しました。



人文科学府 博士1年
ふくなが あきと
福永 暁斗 さん

「文学×教育」分野横断的なルソー研究

ルソーの教育論『エミール』における宗教教育の役割について研究している福永暁斗さん。文学と教育、両面からの分野横断的な研究が特徴的です。両分野の学会に参加し、学会前は徹夜で論文を書くことも多いとか。他の時期は研究を深めるための読書に明け暮れています。研究自体は家で取り組み、先生とのディスカッションや図書館で本を借り勉強するため週2回ほど大学に通っています。

学部生の頃は教員を目指していたが、研究を続けたいとの思いから修士課程への進学を決意。博士課程に進もうと考えたのは修士課程に入ってからだそうです。そんな福永さんが大学生活で最も成長したと感じる時期は、修士1年の12月に初めて学会発表に参加した時です。学会の参加者から研究に対するフィードバックをもらい、もっと研究を続けたいと強く思うようになりました。また、当時の先生からの後押しもあり、博士課程進学を決意しました。継続して同じ研究に取り組むこともあり、博士課程は修士課程の延長のような感覚だったそうです。

研究における作品の解釈においては、先行研究と異なる点がオリジナリティである一方、その点を評価されず厳しいフィードバックを受けることもあるようですが「重く受け止め過ぎずに、次！」というマインドで大変な時期を乗り越えてきたそうです。

将来は研究者になりたいと考えている福永さん。「まずは学部で研究の世界の入口をのぞいてもらって、興味をもったらぜひ続けてほしい」と皆さんにエールを送ります。



修士課程の間に論文を3本も執筆されたという福永さん。まだまだ続きを書きたい！と意気込みを語ります。

国と国との連携を促す研究者になりたい

中国の学校衛生教育について研究する徐佳汝さん。日本へ来たのは学部3年時の交換留学でした。ここで学んだ「国家間の知識の交流」に興味を持ち、帰国後もう一度日本で学びたいと思ったそうです。修士2年の前期では就活も視野に活動していましたが、先生と話し合う中で自身の研究の展望を見出し博士課程への進学を決意したといいます。

九大の良さは資料が豊富にある点だと語る徐さんは、馬出キャンパスまで足を運んで文献を探し、医学の知識も活用して研究を行うこともあるとのこと。さらに語学力を活かして日本語・英語・中国語の文献を読み、先行研究として自分の研究構想に役立てています。

現在は博士論文を書く資格取得に必要な『構想発表』の準備中です。日本の論文は、自分の課題を浮き彫りにする表現方法が中国とは異なり、言葉遣いやどのように読者にわかりやすく伝えるかという点にこだわっているといいます。論文の査読の際のコメントには厳しいものもあるようですが、それでも違う視点からのコメントは勉強になると前向きです。一方、国際学会で自身の研究の視点を褒められ、達成感を感じることもあると笑顔で語ります。

今年で博士課程5年目。言語学習に専念した大学生活を経て、修士課程では教育学の基礎を固め、博士課程で知識を洗練したとこれまでを振り返ります。一番成長したと感じる時期は、学会や研究室の仲間・先生との議論で視野が広がった博士過程。「国と国の連携を促すような人になりたい」と学部生のころから一貫した信念を持ち続けています。



人間環境学府 博士5年
じょ かじょ
徐 佳汝 さん



日本はアジア圏の中で最初に西洋と接触する重要拠点と話す徐さん。中国で“受容”するだけでなく、日本の“伝える側”で研究することに意義があるといいます。

研究者として憲法の専門家に

知識の動態化と統治機構の変容について研究している帆足優希さん。科学技術が発展していくにつれて、統治に必要な知識も日々変化していきます。そのような中で、たとえば議会はどのような法律を作るべきなのか、行政は民間とどう協働し、司法はこれらのプロセスをどう審査すべきか、などといった点を、体系的に研究しています。

もともと歴史が好きだった帆足さん。学部1年次に受けた憲法の授業で、憲法だけでなく歴史や哲学が入り交じった授業を後の指導教員から受けたことが、法学を面白いと思うようになったきっかけだそう。そこからゼミでの討論を通じ、調べる中でわからないことが増え、解決することもあれば、次の問いが見えることもあるという道のりが楽しく、3年次の秋には博士課程に進むと決めたそうです。研究者になることについて「不安な日もありますが、目の前の今できることをやりながら、何より楽しいという気持ちを大切に日々研究に向かっています。」と力強く語ります。

研究室の本棚にはびっしりと本が置かれており、今もずっと増え続けていると話す帆足さんは、これらを読みながら毎日大学で研究を行っているそう。インタビュー中も、たくさんの本や著者を例えにお話しされている姿が印象的でした。学部や修士の学生には「自分自身の問題・関心を明確にする為にはまずはたくさん本を読み、その読書メモをつけたりして、文献調査能力を養っておくと後々役に立ちますよ。」とアドバイスを送ります。



指導教員を“僕の師匠”と呼ぶ帆足さん。忙しい中、指導くださる先生方への感謝の気持ちを嬉しそうに語られていました。



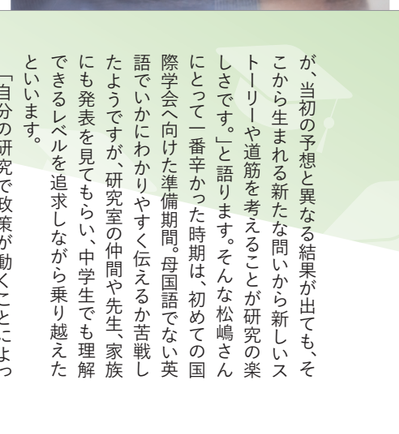
法学府 博士1年
ほあし ゆうき
帆足 優希 さん

自分の研究で政策を動かし未来に貢献していく

住宅に関わる環境問題について、経済的な視点から研究を進めている松嶋そらさん。人間の経済活動による環境への影響を評価する環境経済学について研究しています。その中でも松嶋さんは、衣食住という言葉があるほど、人の営みで一番身近なものである“住”の部分に着目し、環境性能のバランスや住宅の適切な寿命について興味を持ったそうです。博士課程での生活は修士課程の時と比べて、自由な時間が多いため、いかに時間を有効活用して研究するかがポイントだそうです。「研究は仮説を立てて実証するプロセスがありますが、当初の予想と異なる結果が出ても、そこから生まれる新たな問いから新しいストーリーや道筋を考えることが研究の楽しさです。」と語ります。そんな松嶋さんにとって一番辛かった時期は、初めての国際学会へ向けた準備期間。母国語でない英語でいかにわかりやすく伝えるか苦戦したようですが、研究室の仲間や先生、家族にも発表を見てもらい、中学生でも理解できるレベルを追求しながら乗り越えたといいます。

「自分の研究で政策が動くことによって、CO_2のミティゲーション※に貢献することができる、そんな研究者になりたいです。」すでに研究を“仕事“として、人生を歩み始めている松嶋さん。これからも経済的な視点から住宅ストックや脱炭素について研究していきます。

※ミティゲーション（mitigation）とは
環境に対する影響を軽減するための保全行為



経済学府 博士3年
まつしま
松嶋 そら さん



博士課程の生活はプレ研究者だと話す松嶋さん。仕事をする感覚で高い意識をもって日々の研究に励まれています。

ワタシたちが取材しました！
目黒 智将（芸術工学府 修士1年）
和田 詩織（人間環境学府 修士1年）
奥 大河（理学部 4年）
柴田 はるな（法学部 2年）
宮脇 史旺（共創学部 2年）
今村 凪翔（芸術工学部 2年）

九州大学法文学部 創立100周年記念事業を実施

九州大学法文学部は1924（大正13）年に創立されてから、今年で100周年を迎えます。
法文学部は「法律的知識と文学的知識をともにもつ新しい知識層の創出」を目指して創立されました。
現在では九州大学の人文社会科学系4学部として、今回紹介した博士4名のように
奥深い学問的知見を社会に提供し、文化や社会の豊かな発展に貢献しています。
100周年を記念し、「九州大学法文学部創立100周年記念事業」を計画しております。
詳しくは、ホームページをご覧ください。

九州大学法文学部創立100周年記念事業HP

躍動

100年の歴史と新たな挑戦を ALL in!

九州大学水泳部

学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。タイトルは取材に協力した各団体の代表者が書いています。個性あふれる手書き文字に、団体活動への熱意を感じます。

全国7つの旧帝国大学間の体育大会である全国七大学総合体育大会、通称「七大戦」をご存知でしょうか。昨年の七大戦でも多くの九大生が活躍していますが、今回ご紹介するのは、特に素晴らしい成績を収めた九州大学水泳部です（なんと2023年度学位記授与式で総長から団体表彰を受けたそうです！）。創部100年という長い伝統を受け継ぎながらも、新たな挑戦を続けています。

―水泳部の活動目標を教えてください。

中本　このチームのスローガンとして「ALL in」というものを掲げていて、全賭けという意味から、全力を尽くし賭けに出ることを挑戦と捉えて、主体的に行動し学びを求め新しい挑戦をしていこうという感じですね。そして「ALL in」なので、ALL＝全員、選手だけではなくマネージャー・監督・顧問・OB・OGの方々を含めた九州大学水泳部全体で1つになろうという意味も込めています。より具体的な目標としては、7月の九州学生選手権、七大戦、8月の全国公立大学選手権など各大会の結果に加えて、初心者などなかなか大会で活躍できない選手も含め全員で、1年間でチーム内のベスト記録更新回数500回達成を掲げています。

―入部のきっかけを教えてください。

小関　私は高校で水泳をやっていたので元々水泳部に興味があって、入るかどうかは決めずに新歓に行ってみたら、本当にみんな優しくて雰囲気がすごく良くて「入るしかない」と感じたので入りました。

菖蒲　私も元々高校までやっていたのと、同じ出身地の葵ちゃん（小関さん）もいて誘われて体験に行ってみたら楽しかったので入りました。

菖蒲　他には部活の縦の繋がりが良く、先輩が優しく接してくれたり気にかけてもらったから自分も後輩に話しかけにいこうみたいない循環になっていて、部員も多いので話す機会が結構あり、いいところだなと思ってます。

中本　設備面だと、国立大学でこれほど環境が整っている大学はないというぐらい設備が整っている点ですね！　OB・OGの方々のご支援・ご寄附によって平成30年6月に完成したのですが、室内温水プールで自分の練習に集中できるのは大きな魅力です。

小関　あとは練習が朝にあるので、1限にちゃんと出席できます（笑）。

―部活動のモチベーションを教えてください。

小関　チームメイトですね！　特に同期がみんな本当に頑張っているから、その頑張りに引っ張られて頑張れるというのがモチベーションです。プライベートも含めて大好きなみんなと頑張っていきたいという感じです。また、試合の結果をOB・OGの方々が常に見てくれて連絡をいただけるのも嬉しいですね。

中本　僕は2つあって、1つはシンプルに水泳の結果で達成したい目標があるからとか、少しでも速くなりたいという思い、もう1つは葵ちゃん（小関さん）と同じく周りが頑張っているからそれに引っ張られて頑張れたり、練習後に色々喋ったりするのが楽しくて…とか、そういうのもモチベーションになっています。

菖蒲　私はチームメイトに会いたいからというのと、自分のタイムを見て「今日いいじゃん！」みたいに声をかけてくれる人がいることですね。基本的に褒められて伸びるタイプなので（笑）応援してもらえることで頑張ろうと思えたりベストを出したいというモチベーションになっています。

―高校生へのメッセージをお願いします。

小関　大学でしか味わえない団体戦、みんなで関わり合い、同じ目標に向かって頑張る経験はすごく貴重で、社会に出てからもこんなにも夢中になれることってないと思います。

中本　高校まで水泳は個人競技だと思っていたけれど、九州大学水泳部に入ってお互いに高め合い、応援し合いという中で初めて水泳が団体戦だと感じました。なので高校で水泳をやめようか迷っている人がいたら、ぜひ大学の水泳を経験してみてほしいし、感じてほしいです。

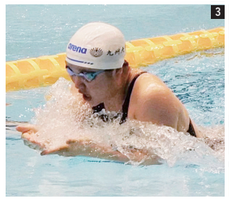
菖蒲　サークルではなく部活で頑張るからこその楽しさや目標までの過程は、今後の人生の糧になると感じています。私は、やっぱり九州大学水泳部が一番好きなので、迷っているならぜひ入ってほしいです！



伊都キャンパス
総合体育館
室内プールでの
練習風景









1 2023年7月 七大戦にて大会新記録樹立
2 3 レース風景
4 2023年7月 九州学生選手権男子4×100mメドレーリレー3位



2023年7月 七大戦にて男女アベック優勝達成！

Data

◎部員：53名（2024年5月22日時点）
◎メンバーの学年：学部4年：8名、3年：16名、2年：14名、1年：15名
◎活動場所：伊都キャンパス総合体育館室内プール
◎活動日：平日朝の2時間程度の練習（任意参加）・
土曜日と祝日の2時間程度の練習
◎問い合わせ先：
mail：kyusyuswim@gmail.com
HP：https://kyushuswim.wixsite.com/boutique-recruitm-jp
Instagram：https://www.instagram.com/kyushu_univ.swimteam/
X（旧Twitter）：https://twitter.com/kyushuswim

▲HPはこちら

この記事は広報課学生スタッフが制作しました

奥 大河（理学部 4年）　今村 凪翔（芸術工学部 2年）

取材協力



㊥ 男子主将
中本 和馬（なかもと かずま）さん
農学部生物資源環境学科
応用生命科学コース
食糧化学工学分野 3年

㊧ 女子主将
小関 葵（こせき あおい）さん
法学部 3年

㊨ 女子副将
菖蒲 和奏（しょうぶ わかな）さん
理学部生物学科 3年

留学生体験記

南太平洋に浮かぶ島国、トンガ王国からの留学生にインタビュー。
研究内容や将来の夢、九州大学の魅力などについてお聞きしました。



Bloomfield Latu Uliafuさん
（ブルームフィールド・ラトゥ・ウリアフ）

大学院 総合理工学府 機械・システム理工学メジャー
修士課程2年

出身国：
トンガ王国

南太平洋大学のフィジーキャンパスで電気電子工学を専攻していたラトゥさん。気候変動が母国に及ぼす影響について学ぶなかで、留学を決意したそうです。



能古島アイランドパークで研究室のメンバーと。「日本はトンガより花の種類が多様で美しいです」

MY FAVORITE!



大野城市主催の高校生英語スピーチコンテストにIGSES（九州大学大学院総合理工学府）留学生会の学生として招待され、高校生と交流を図った。

Q 日本への留学のきっかけは？

トンガは小さな島国で、毎年サイクロンが発生しています。また、温室効果ガスを排出する要因の2番目に挙げられるのが国内の電力の約86%をまかなっているディーゼル発電によるものです。気候変動がトンガに及ぼす影響や再生可能エネルギーについて学びを深めて、母国に貢献したいと考えて留学を考えるようになりました。日本は太陽光発電や風力発電がトンガに導入された際の協力国であり、再生可能エネルギー技術の先進国であるというイメージがありました。そのため、私の研究に適した国であると考えました。

Q なぜ九州大学を選びましたか？

九州にある名門大学だと知って興味を持ち、総合理工学府には私が学びたい専攻がありました。さらに、多くの留学生が在籍しており、英語でコミュニケーションを図りながら研究できる国際的な環境も大きな魅力でした。

Q 現在の研究内容をご紹介ください。

波力、太陽光、風力を活用したハイブリッド再生可能エネルギー発電システムが、トンガにおける温室効果ガスの発生にどんな影響を及ぼすのか、また、経済的にはどのような効果をもたらすのかについて、技術面、経済面、それぞれの側面から評価する研究を行っています。

Q 九州大学で研究することの魅力は？

私の研究室では日本人以外に中国、エジプト、スーダン、イラク、グアテマラ、ペルー、ケニア、ウガンダの留学生が学んでいます。研究室の仲間は親身にサポートしてくれますし、同じ研究室内で多様な研究が行われているので、他の研究内容を見られるのも参考になります。

Q 留学して感じる日本や福岡の印象は？

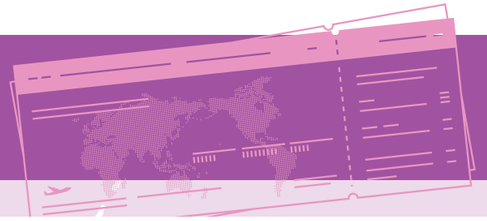
福岡は東京や京都に比べて小さい都市で静かなイメージを持っていましたが、実際は大都会で街がキラキラしています。日本の人は想像通りに礼儀正しく親切ですが、日本の学生は私から見ると慎重でおとなしい印象がありますね。留学など、もっと色々なことに挑戦して、活躍して欲しいです。

Q 留学後のビジョンは？

九州大学で博士課程まで学んだ後に帰国を予定しています。政府機関やNGOなどで再生可能エネルギーの推進プロジェクトに関わり、日本で学んだ知識や技術を応用することで母国の発展に貢献したいです。また、長期的なビジョンとしては、ニュージーランドやオーストラリアなどのトンガ国外で活躍し、再生可能エネルギー関連の多様な経験を積みたいとも考えています。



留学生仲間と一緒に訪れた広島での一枚。平和記念資料館や廿日市市の美術館が印象深いそうだ。



世界から九大へ　九大から世界へ

KYUDAI GLOBAL STUDENTS

世界のキャンパス、

新型コロナ5類移行により、コロナ禍前の日常に戻りつつあります。
そんな中、海外留学を体験した九大生に、留学先で
どんなことを学び、どんな暮らしをしていたのか語ってもらいました。



浪﨑 陽菜さん
（なみさき ひな）
経済学部4年

留学先：香港
香港科技大学
期　間：2023年8月～12月

留学でつけた自信を次のチャレンジへ

英会話が好きかつ中華圏に興味があり、香港への留学を決めました。留学先では交渉、中国の司法、香港からみた社会学などを学びました。

-休日の過ごし方、留学して良かったこと

休日は街を散策したり、中国本土に旅行したりしました。香港の面積は東京都のおよそ半分で、MTR（地下鉄）に乗っていろいろな所に出かけました。時間がある時は、香港よりも物価の安い深圳まで買い物をしたりご飯を食べに行ったりしました。留学して良かったことは、知らない土地で暮らす経験ができたことです。言葉や文化が違っても、一緒に授業を受けたり友達を作ったりできて、自信になりました。

-留学経験をどのように活かしていきたいか

仕事で英語を使う機会があれば、臆することなく会話できる姿勢を持ちたいです。また、さまざまな人と出会い刺激を受けたので、今後も新しいことに挑戦し、人との関わりを大切にしたいです。

-留学を考えている人へメッセージ！

どのような形であれ、留学してみたいという気持ちがあるなら、実行するのが良いと思います。留学先で出会った人を見て、卒業を1年延ばしてから留学する人、就職先を決めてから留学する人など、いろいろな留学の形があると感じました。4年で卒業しなければいけない、大学の勉強も就活も周りと同じように頑張らないといけないなど、必要以上に焦る必要はなく、留学をしたい気持ちがあるなら、留学や、その他の事柄との優先順位を考えて、思い切って留学してみるものいいかもしれないと思います。



3連休などは深圳に行きました。高速鉄道やMTRで1-2時間で行くことができ、中国本土の火鍋やお茶、風景などを楽しみました。



香港スタイルの朝食としてミルクティーやマカロニスープを食べました。ミルクティーの味が日本と違ったり、朝食にマカロニスープが出てきたり、香港の食文化を楽しみました。



寮のベランダからの景色です。キャンパスは海に面したところにあり、香港の美しい海や山をいつでも見ることが出来ます。

留学生のごはん事情

学食は1食30-50HKD（¥600-1000）でした。中華圏の料理を中心に、日本食コーナーや洋食コーナーもあり、さまざまな食事を楽しめました。プレートの左上は「西紅柿炒鶏蛋」という有名な中国の家庭料理でとても美味しいです。





香港科技大学

1991年に香港政府が香港の西貢区に創立した公立大学。香港の経済力を上げることを目的として、テクノロジーとビジネスに力を入れた大学として設立された。生命科学、工学、ビジネス教育、人文・社会科学、その他多くの専門領域を有し、世界各国の名門大学や企業との提携も多く、最先端の研究をすることができる大学として世界中から留学生が学びに来る。また、教授や講師の外国籍比率が大変高いのも特徴的である。キャンパスは、クリアウォーターベイ半島の北部にあり、大学からの海の眺めが美しいことで有名。



構内で飲茶ができるお店があり、ランチに飲茶を楽しみました。

留学情報はこちら！　https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study

看護師としての現場経験を武器に後輩を育てる



大学院の学位記授与式当日、病院キャンパスにて



医学部保健学科 2017年卒業
医学系学府 保健学専攻 2024年修了

九州大学大学院
医学研究院保健学部門 助教

久保 葵（くぼ あおい）

―どのような大学生活を過ごされていましたか？

久保 医学部保健学科で看護学を専攻しましたが、充実していましたね。実習などで忙しかったですが、充実していましたね。2年生の夏休みにイギリスに短期留学して、オックスフォード大学の学生寮に宿泊したことも思い出深いです。医学部は病院キャンパスにあるので、カフェのアルバイトで他キャンパスに通っている学部の友人と交流することも楽しかったです。

―看護師を目指したきっかけは？

久保 高校生の頃に発生した東日本大震災が転機になりました。災害などの予測不能な事態が起き、どんな世の中になったとしても、必要とされる仕事は何かを考えました。その結果、医療業界を志すことにしました。

―看護師時代の思い出を教えてください。

久保 学部卒業後は数年間、九大病院の外科病棟に所属する看護師としていました。入職3年目から新型コロナウイルスの対応も経験しました。病棟には抗がん剤治療や緩和ケアを受けられている方も多く、免疫の落ちている患者さんに感染させないように細心の注意を払う緊張感のある仕事でした。また、新人のプリセプター（指導役）や病棟全体の教育リーダーを経験し、教育に興味を持ちました。

―保健学科で学んで良かったと感じることはありますか？

久保 看護実習では患者さんと密に関わることができました。そこでコミュニケーションのとり方を豊富に学べたことが、看護師として患者さんと接する上での基礎になりました。また、九大病院で実習を行うことができるので、そのまま就職した私にとっては、雰囲気や仕組みになじみやすかったです。

―現在はどのような仕事をされているのですか？

久保 教育への興味から看護師を経て九大の大学院へ進学し、現在は助教として看護師を目指す九大生への講義や看護実習の引率などを担当しています。教員のなかでは私が一番若く、学生に近い立場で指導やフォローを行えることが私の強みです。大学で学んだ後、学生が看護師として医療の現場に立った際に少しでも戸惑わないように、現場経験者としての生きた知識を伝えるように意識しています。

―九州大学を目指す受験生にメッセージをお願いします。

久保 数学や化学など、一見専門分野外と思える教科であっても、受験勉強で学んだ知識は医療の現場で役立ちます。合格を目指して、ぜひがんばってください。8月のオープンキャンパスに私も参加するので、皆さんに会えることを楽しみにしています。


「一番リフレッシュできるのは海外旅行」と語る久保さん。写真は友人とバルセロナに行った際のもの

私の憧れである看護師をしていた先輩から、教員を目指したきっかけや思いを聞くことができ、自分は今後どのように看護に携わっていきたいか考えるきっかけになりました。私も久保さんのように公私共に充実させ、苦しい時でも誰かの役に立てる看護師になれるよう頑張りたいと思います。



聞き手 | **末﨑 美凪（すえざき みなぎ）** 医学系学府 保健学専攻 修士2年

命につながる仕事の責任とやりがいを胸に



理学部生物学科 2021年卒業
山下医科器械株式会社

持田 真由（もちだ まゆ）


佐賀県吉野ケ里のフォレストアドベンチャーにて、新入社員研修のチームビルディングプロジェクト

―大学ではどのような研究をされていたのですか？

持田 高校生の頃に生物学に興味を持ち、大学でより学びを深めたいと考え、生物学科の動物発生学研究室に所属。ニワトリの精細胞や卵細胞の元となる始原生殖細胞を研究しました。細胞の移動過程や分子に関するメカニズムを解明しようとする研究です。

―現在はどのような仕事をされているのですか？

持田 医療機器ディーラーの山下医科器械でメーカーと病院・クリニックの間に立って、最適な医療機器を提案、販売することが、営業である私の仕事です。メスなどの消耗品からＭＲＩなどの高額な装置まで、扱う医療機器は多岐にわたります。病院ですべに立ち合って、販売した機器や装置が問題なく動いているかを確認するなど、入社前の想像以上に医療の現場に深く関わることができています。

―仕事のやりがいを教えてください。

持田 直近のオペで使用する機械などの急な発注が入ることも珍しくありません。納品が遅れると、そのオペが実施できないことになります。医療機器メーカーと連携して納品を間に合わせ、無事に手術が終わったという報告をもらえると、ほっとするものです。人命に直結する仕事に携われていることにやりがいを感じています。

―理学部で学んで良かったと感じることはありますか？

持田 オペに立ち合った際に、臓器の位置などが分かっているので症例についての理解が早いなど、生物学を学んだことの直接的なメリットを感じる場面は多くあります。また、学生時代に目の前の壁を乗り越える習慣がついたため、今でも諦めずに取り組むことが自然とできています。これも、九州大学で学んだからこそ得られたものだと思います。

―九州大学にどのような活躍を期待していますか？

持田 ニュースをチェックしていると、大学生や大学院生がブレイクスルーにつながるような研究結果を発表したという記事を見かけることがあります。九州大学の教育の質の高さは卒業生として身に沁みて感じているので、「九大生の○○さんが世紀の発見！」みたいな記事を目にすることを楽しみにしています。

―九州大学を目指す受験生や在校生にメッセージをお願いします。

持田 後悔しない学生生活が送れると思うので、進学を迷っている人には自信を持っておすすめしたいです。在校生は授業やサークル、アルバイトで忙しいと思いますが、長期で休みがとれる学生のうちに、やりたいことにどんどんチャレンジしてください。


動物発生学研究室の同期と卒業式の日に撮影した写真。持っているのは研究で使用した有精卵

同じ研究室の先輩にインタビューさせていただくことができ、とても良い経験になりました。研究者ではなくても、学部での知識を活かしながらできる仕事があり、実際に活躍している先輩がいらっしゃることを知り、理学部からの進路が想像していたより開けていることを実感しました。持田さんのように視野を広く持ち、行動力を大事にしながら研究を進めたいです。



聞き手 | **服部 優菜（はっとり ゆうな）** 理学部 生物学科4年



箱崎サテライトの旧工学部本館。大学文書館はこの1階に位置する

Close Up! 九大

クローズアップ九大

知られざる貴重な資料の宝庫

図書館でも博物館でもない「大学文書館」ってどんなところ？



藤岡（ふじおか） 健太郎（けんたろう） 教授

九州大学大学文書館の副館長、史料情報室長を務め、大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻の教授、博士（比較社会文化）でもある。専門分野は大学史・アーカイブズ学・日本近代思想史。

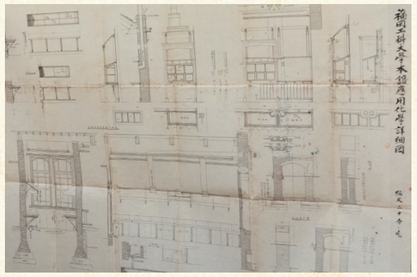
九州大学に関する8万点以上の貴重な資料を保存する施設

九州大学箱崎サテライトの中央にそびえる旧工学部本館に「九州大学大学文書館」はあります。ここに保存されているのは、九州大学に関する貴重な資料の数々です。大学文書館の副館長を務める藤岡健太郎教授によると、保存点数は「主に九州大学法人文書からなる特定歴史公文書等に該当するものが約1万8000点、さらに個人などから寄贈された資料が正確には把握しきれていないのですが約7万点ほど」という膨大な数にのぼります。『九州大学七十五年史』編纂（へんさん）のために学内外から集められた資料を保存する施設として1992年に「九州大学大学史料室」が設置され、その後、大学史料室が学内の他の施設に点在していた歴史的な資料をまとめて保存する役割を担うことになり、2005年に「九州大学大学文書館」が発足しました。

日本全国に16施設しかない「国立公文書館等」に指定される

資料を保存するための一施設だった大学文書館は、2011年に「国立公文書館等」の施設として内閣総理大臣の指定を受けることになります。その経緯について藤岡教授は「公文書管理法が施行され、九州大学の特定歴史公文書等（歴史資料として重要な公文書その他の文書）を管理する施設として大学文書館が指定されました。すべての国立大学法人に本学の大学文書館に類似した施設があるわけではなく、国立公文書館等に指定されているのは全国に16施設しかありません」と語っています。

また、2011年から17年にかけて刊行された『九州大学百年史』の編集期間中は、大学文書館が編集室としての役割を果たしていました。



現存しない九州帝国大学だった頃の建物図面をはじめとした多様な紙資料のほか、大学関係の写真（ネガ・スライドを含む）や映像メディア、さらには恩賜の銀時計などの物品まで、100年を超える九州大学の歴史を物語る貴重な資料が保存されている

資料の保存や公開だけではなく研究や教育、広報などの活動も行う

大学文書館の主たる活動は、集められた資料を整理・保存して、公開することです。特定歴史公文書等だけでなく、個人などから寄贈を受けたその他の資料についても、目録に記載のあるすべての資料は所定の手続き（17ページ参照）を踏むことで誰でも閲覧できます。さらに、貴重な資料群を調査・研究や教育に活用することも、大学文書館の重要な役割といえます。具体的な活動内容について藤岡教授は「科学研究費をとって令和4年度まで私が担当していた、九州大学病院の古い診療録（カルテ）を研修材料にした医療アーカイブズの構築など、収集資料を調査・分析したさまざまな研究が行われています。また、大学院生が文書管理に関する研究を行うアーカイブズ学の授業を私が担当しており、その他にも基幹教育として九州大学の歴史に関する授業などが行われています」と解説しています。

さらに、毎年刊行される『九州大学大学史料叢書』『大学文書館ニュース』などでの情報発信も大学文書館の活動の一部です。







【上】明治期から現在にいたるまでの資料が閲覧できる
【中】手紙や日記などのプライベートな資料も多い
【下】「資料のデジタル化を進めています」と藤岡教授

常設展示されている資料や写真で九州大学の歴史を感じる

広報活動の一環として、大学文書館のある旧工学部本館内に資料の一部が展示されており、企画によって展示物を入れ替えています。また、2021年からは伊都キャンパスの椎木講堂内でも常設展示（下記参照）が開始され、本学の歴史に関する資料や写真が気軽に見られるようになりました。



旧工学部本館では、第二次世界大戦中の資料や箱崎キャンパスがあった頃の遺失物などが企画展示されている（24年6月現在）

≫「九州大学大学文書館」最新の活動をチェック!

既存資料の整理やオンラインで閲覧できるようにするためのデジタル化、新たに寄贈された興味深い資料の公開に向けた準備、学生への授業や学内外への情報発信など、大学文書館の活動範囲は多岐にわたります。その活動の一部をアルバイトの九大生が支えています。



資料の整理作業で九大生が活躍中

膨大な資料を1点1点精査して目録にまとめていくという地道な作業には九大生がアルバイトとして参加し、母校の歴史を紡いでいます。

24年秋には新資料が公開予定

本学の副学長を務め、科学技術史を研究していた吉岡斉の数万点に及ぶ資料を公開予定。原子力発電所に関する政府への提言など、貴重な資料を数多く準備しています。

吉岡斉の資料が第50回 放送文化基金賞の受賞に貢献!

2024年3月2日（土）に放送された、NHK福岡放送局制作のETV特集「膨張と忘却～理の人が見た原子力政策～」が、第50回放送文化基金賞のドキュメンタリー部門で最優秀賞を受賞しました。



同番組は、大学文書館に保存されている吉岡斉の資料などをもとに制作されており、大学文書館における資料の収集・整理・保存・公開の重要性が改めて認識され、そのような日々の地道な作業が、最優秀賞受賞に大きく貢献したといえます。



「知る」習慣をつける基幹教育の授業

大学文書館の資料などから判明した、九州大学の歴史を概説。母校の軌跡を知れるだけでなく、大学で学ぶこと・研究することなどの意味を考え、自らが生活する"場"について「知る」習慣を身に付けられると好評です。

赤司（あかし） 友徳（とものり） 准教授

九州大学大学文書館所属。収集資料の保存・活用の実務と研究のほか、基幹教育科目や大学院の授業も担当している。



常設展（九州大学の歴史）

創立前から現在までの九州大学の歴史を、大学文書館が所蔵するさまざまな資料によって紹介します。

椎木講堂1階の展示は内容充実!

箱崎だより「動物剥製資料開示室の標本資料」
―ニホンアシカの剥製（はく）―

九州大学 総合研究博物館 准教授
丸山 宗利



総合研究博物館に保管されている、全国でも貴重なニホンアシカの剥製

ニホンアシカ（Zalophus japonicus）は過去には東アジアに広く生息していた哺乳類です。乱獲により、すでに絶滅した動物といわれています。現存する標本の数は世界にわずか10数頭とされていますが、そんなニホンアシカの貴重な剥製標本が2018年に九州大学で見つかりました。

かつて、農学部水産増殖学研究室（魚類研究室）の収蔵庫が箱崎キャンパスの貝塚駅の近くにありました。そこでホコリにまみれて真っ黒になっているアシカの剥製が見つかり、すぐに当館に引き取り、掃除作業が始まりました。ただ、その時点ではニホンアシカであるかどうかは不明でした。

その昔、箱崎には水族館があり（その名も箱崎水族館）、創業者の曾孫にあたる花田典子さんが、アシカの剥製が見つかったという噂を聞きつけ、清掃作業に名乗りを上げてくださいました。実は箱崎水族館でニホンアシカを飼育していたので、剥製はその個体ではないかという話が持ち上がりました。花田さんのお話しを聞き、当時の証拠の数々により、直ちにこの個体が箱崎水族館から本学に寄贈されたニホンアシカである可能性が高いことが明らかになりました。

記録によると、箱崎水族館では、開館の1910年3月24日から閉館の1935年4月21日までアシカが飼育されていたそうです。そして、開館翌日の福岡日日新聞に本個体（体重や写真から推測）に関して「朝鮮産で体量八十斤位三ヵ年以上飼養されて居たもので能く人に馴れ鰯を持って興る前に吼へと云へば吼へ廻れと輪を書き示すと桶の水中を泳いで廻る・・」との記述があります。そして本個体とそっくりなアシカの絵葉書も残存しています。



アシカの絵葉書。オットセイと記載されており、当時は混同していたと考えられる。（花田典子さん提供）

水族館の閉館後、死んだ個体の剥製はしばらく花田さんのご実家にあったようです。花田さんのご母堂がご結婚された頃、ご自宅にアシカの剥製があったことをご記憶とのことですが、本学に来た時期などは不明です。

いずれにしても、本剥製は非常に貴重なものであり、九州大学が収蔵する自然史資料の底知れない可能性を示すものとも言えます。空調のない環境に保存されていたために、やや傷みがありますが、日本に残っているニホンアシカの剥製のなかでは、群を抜いて美しい個体です。今後はDNAの分析などの研究に供するとともに、本個体の由来についても調査していきたいと思っています。



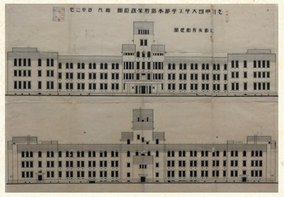
箱崎水族館（正面）の絵葉書。当時は九州初の本格的な水族館として賑わっていた。（花田典子さん提供）

建物図面

既に取り壊された建物から現在も各キャンパスに残る施設まで、さまざまな建物図面や建設にまつわる資料が残されています。大正12年に焼失した旧工科大学本館の煉瓦や礎石を、箱崎サテライトに今も残る本部第一庁舎に転用するにあたっての詳細な記録など、本学創立からの歴史を今に伝える資料を数多く所蔵。大学の枠を超え、日本の建築史において貴重な資料として研究にも活用されています。2023年に箱崎サテライトの4施設が国の登録有形文化財に登録されるにあたっては、これらの資料が文化財としての価値を示すために役立ちました。



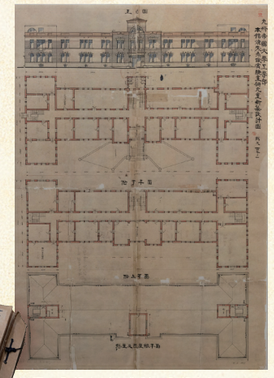
建築資材の種類や個数、資材単価、人件費など、建設にかかった費用が事細かに記されている



大学文書館の入る旧工学部本館の図面。現在の建物の外観（P15の写真）と比較すると興味深い



火災による焼失からの再建費用などがまとめられた大正13年の資料は10cm以上の分厚さ



国の登録有形文化財に登録されている箱崎サテライトの本部第一庁舎（旧九州帝国大学本部事務室棟）の設計図面

西久光資料

本学が九州帝国大学だった頃の工学部教授で初代理学部長でもあった西久光に宛てた著名な科学者からの書簡を中心とした資料です。物理学者であった西の交友関係は広く、書簡の送り主には日本初のノーベル賞受賞者となった『湯川秀樹』、磁気学、地球物理学、原子構造論などで世界的な功績を挙げた『長岡半太郎』、日本に量子力学の研究拠点を作ることに尽力した『仁科芳雄』、本学の理学部創設の礎となった『桑木彧雄』といった錚々たる顔ぶれが並んでいます。約200点に及ぶ資料のうち歴史的な価値が高いと思われる書簡については、現物の公開だけでなく、文字の解読が難解な文面を書き起こして1冊にまとめた冊子も刊行されています。



桑木彧雄が留学先から送った書簡にはシュレーディンガーなどの科学史における重要人物の名前がある。長岡半太郎は西の研究へのアドバイスを記しており、文面から真面目な人柄がうかがい知れる

奥田八二資料

1983年から12年にわたって福岡県知事を務めた奥田八二は、本学の教授だった頃から丁寧に日記をしたためており、県知事を退任した後まで約40年にわたる大量の日記を残しました。日記そのものは一般に公開されていませんが、日記を活字化したデータはウェブ上で公開されています。藤岡教授によると「この時代に知事を務めた人物の日記がこれだけの量で残され、公開されているのは日本で唯一ではないでしょうか」とのこと。当時の本学内の動き、地方自治、地方政治に関することが分かる貴重な資料です。



日々の出来事が書かれた3年連用日記とは別に、知事になってから始めた1年1冊の日記があり、その日ごとにテーマを決めて考えが記されている

九州大学大学文書館

■所在地
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
TEL：092-642-2292

■開館時間
午前9時30分から午後4時30分まで

■休館日
土曜日及び日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、12月28日から翌年1月4日まで
＊臨時休館の場合はホームページのトピックスでお知らせします。
WEBサイト

■アクセスマップ



箱崎サテライトは学外者の方の車での入構はできませんので、来館の際は近隣のコインパーク（時間貸駐車場）をご利用 ください。

■利用請求について
特定歴史公文書等の利用請求をされる方は、閲覧を希望する資料を、九州大学大学文書館（以下、文書館）受付に備え付けの「特定歴史公文書等目録」又はHP上の「資料目録」により確認のうえ、所定の「特定歴史公文書等利用請求書」に必要事項を記入して文書館受付へ提出してください（郵送による提出も可能です）。なお、「特定歴史公文書等利用請求書」の様式は、文書館受付にも準備しております。

■閲覧について
特定歴史公文書等の閲覧は、文書館の閲覧室にて行っていただきます。閲覧室を利用される場合は、文書館受付に備え付けている「九州大学大学文書館閲覧室利用申込書」を受付にご提出ください。
※閲覧室内においては、ご持参いただいたカメラによる資料などの撮影は原則として可能ですが、撮影を行う場合には、文書館職員にお申し出いただき、職員の指示に従って撮影してください。

Connect with Alumni

同窓会通信

共創学部同窓会

九州大学共創学部の同窓会は、今年で設立3年目。国内外で活躍する同窓生の拠り所となるべく、体制の基盤作りに奮闘中の木村紗彩会長にお話を伺いました。



第1回総会・懇親会での集合写真（2022年）

共創学部らしさを活かす新しい同窓会の形を模索中

コロナ禍での学生時代が設立への原動力。留学生の会員基準も独自に検討

―設立のきっかけをお聞かせください。

木村　共創学部は2018年に設置された学部で、私はその1期生として入学しました。新設学部ですから、もちろん同窓会組織はなく、私が4年生のときに同窓会について検討するメンバーの募集がありました。それが、共創学部同窓会設立のきっかけです。私を含む1期生3人、2期生3人の計6人が設立準備委員となり、まずは「同窓会組織を作るべきか」という話し合いから始めて、設立に至りました。特に、当時はコロナ禍だったこともあり、在学中の半分はオンライン授業などを余儀なくされてきました。そんな社会情勢も相まって、卒業後もつながりを持ち続けることのできる組織を作りたいという想いが強かったのだと思います。また、1期生には「学部の先輩」がいませんでしたから、些細な相談事や就活のOB・OG訪問など、心細いと感じる瞬間も少なからずありました。在学中に縦のつながりの重要性を感じた1期生だからこそ、世代を超えた交流を生み出せる同窓会を後輩たちのために作りたいと考えました。現在は、設立準備委員を務めた1期生の3人が会長・副会長として日々奮闘しています。



設立決定後、卒業式で同窓会の案内を行った役員（2022年）
（左から）五斗優香副会長、木村紗彩会長、浅見昂志副会長

―共創学部には留学生も多いですよね。

木村　共創学部には、さまざまな留学生がいます。例えば、1年次から共創学部に入学して学位を取得する留学生もいれば、半年や1年間だけ在籍して母国の大学で学位を取得する交換留学生もいます。同窓会は通常、卒業生のみで構成されることが多いですが、当会では共創学部で共に学んだ全ての人に門戸を広げるべく、会員資格にも工夫を設けています。準会員の基準には「共創学部を卒業していないが、そこにアイデンティティを持つ者」、つまり交換留学生にも参加してもらえる仕組みにしています（※共創学部を卒業する留学生は正会員）。



共創学部は、自ら設定した社会課題の解決に向けて、さまざまな学問領域を組み合わせて学びます。卒業後の進路も本当にさまざまです。だからこそ、世界各地に共創学部のアイデンティティを持った仲間がいること、そのような仲間と生涯つながり続けることは、会員だけでなく、在校生にとっても非常に重要であると考えています。同窓会が、今後世界で活躍していくであろう会員たちの心の拠り所になれたらと思っています。

新社会人や大学院生の役員で試行錯誤。縦と横のつながりを深めるために

―現在の活動内容をお聞かせください。

木村　主に、年に1回の総会と、それに併せて会員間の親睦や情報交換のための懇親会を開催しています。総会は対面とオンラインのハイブリッド、懇親会は対面での実施としている点がこだわりです。総会では、海外の大学院に留学中の会員もオンラインで参加し、意見交換などを行っています。懇親会は、学年が異なる会員同士や先生方、共創学部事務室（以下、学務）の方々がスムーズに交流できるように、ワークショップなどを企画しています。先生方や学務の方々には、毎年ご参加いただいています。卒業後も気にかけてくださることは、とてもありがたいですね。

運営面では、対面とオンラインの良いところを最大限に活用できるように試行錯誤を重ねています。現在の役員は、1期生と2期生で構成されていますが、社会人もいれば、大学院生もおり、居住地も東京や福岡、沖縄などさまざまです。そのため、役員全員が自分のライフスタイルに合わせて活動できるように、会議はオンラインで行い、資料も基本的にクラウド上で共有・管理しています。オンライン・ペーパーレスにすることで、世界各地どこにいても、全員で情報共有できる環境づくりを目指しています。その一方で、会員同士の交流を図る上では、やはり対面で会話を交わすことが重要です。これから、さらに卒業生が増えていきますから、多くの人にとって魅力的な交流の場を提供できるように、今後も積極的な活動をしていきたいと思います。



2期生を迎えた第2回総会・懇親会でのワークショップ
先生方も交え楽しむ会員たち（2023年）

―設立や運営で苦労されたことは。

木村　設立1年目が特に印象に残っています。団体としての口座開設から金銭出納の内規づくりまで、先生方や学務の方々に相談しながら、一つずつ進めていきました。個人的には、社会人1年目で時間のやりくりが大変でしたが、大学院に進学した役員とも助け合い、そして、さまざまな方に支えていただいて、3年目を迎えることができたと感じています。

―今後の展望をお聞かせください。

木村　まずは、しっかりとした運営体制を築き、次の世代につなげられるようにしたいですね。また、今年度から新たに、縦と横のつながりを深めるための「泡盛プロジェクト」を計画しています。学年ごとに年代物の泡盛を購入し、それを飲み比べながらお酒を酌み交わすといったものです。泡盛のアイデアは、共創学部での学び（フィールドワーク）をきっかけに役員から発案されたもので、個々の共創学部への想いを感じました。



泡盛プロジェクトの企画案を説明する浅見副会長（2023年）

―最後にメッセージをお願いします。

木村　同窓会設立・運営にあたっては、卒業生である会員の皆さんはもちろん、先生方や学務の方々に大変お世話になっています。今後の活動で、九州大学や共創学部へ恩返しができるように、役員一同努めていきたいと思います。



お話を伺ったのは…
共創学部
同窓会 会長
木村 紗彩（きむら さあや）さん
2022年卒業

九州大学共創学部同窓会
共創学部同窓会

E-mail kyoso-dousoukai@ml.jimu.kyushu-u.ac.jp
共創学部同窓会への問合せはこちらのメールアドレスへご連絡ください。

KYUDAI-KIKIN REPORT

九大生応援基金で実施している学生支援をご紹介します!

九州大学基金の数ある支援メニューの中でも毎年多くの学生を支援している「九大生応援基金」。支援いただいた学生の生の声をご紹介します。

海外派遣事業について

自国の文化や歴史を知り、自分の考え方を国際社会で主張できる論理的思考力、積極的姿勢や発信できる語学力を兼ね備える学生の国際性を育てるため、海外派遣事業の支援を実施しています。

海外渡航支援 支援対象:学部生もしくは大学院生

学生が海外の大学などで学ぶことにより、語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・行動力を磨き、異文化に対する理解と国際感覚の醸成を図り、グローバルに活躍できる人材として社会に貢献できるようになることを目的とし、渡航費を支援します。

感謝の声

経済学部 経営・経済学科4年 小畠(おばた) 啓裕(よしひろ)

ドイツ ミュンヘン工科大学
期間:2023年4月5日～2023年8月8日

現地では大変多くの学びがありました。企業価値評価や資本構成について学ぶ講義は、フォルクスワーゲンやジーメンス子会社のCFO(最高財務責任者)による講演があり、具体的なビジネス体系やCFOの視点について当事者から直接学べる貴重な機会でした。また理系学生向け政治学の講義は「既存の概念や新たなルールは誰に作成されどのようにして受け入れられているか」「世界にどう影響を与えていくのか」という斬新な切り口で進められていきました。このような観点で理解を深めていく経験は新鮮で、自分の思考の幅を広げられました。



交換留学生用の交流プログラムでの昼食の様子(右端が小畠さん)

大学の授業時間外には、私的な旅行や交換留学生用の交流プログラムでドイツ各地を訪問し、現地の友人を作りながら歴史や文化の理解を深められました。ゴシック様式で有名なケルン大聖堂やニュルンベルクのナチス党大会跡と博物館など、実際に訪れたことで得られた学びは多く印象に残っています。

ドイツ留学は私にとって大きな目標であると同時に、金銭面から実現は困難でしたが、皆さまの温かいご支援のおかげで大変実りある留学生活を過ごすことができました。この度はご支援いただき本当にありがとうございました。

国際会議等参加支援 支援対象:大学院生

学生が国際会議などにおいて研究発表するための機会を増やすことにより国際感覚の醸成を図ることを目的とし、国際会議などに論文を提出し、研究成果を発表するための渡航費などを支援します。

感謝の声

理学府 地球惑星科学専攻 博士1年 塩原(しおはら) 拓真(たくま)

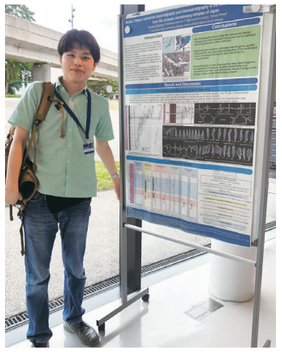
フランス　第4回国際層序学会
(4th International Congress on Stratigraphy)
期間:2023年7月10日～2023年7月13日

私が参加した国際層序学会(STRATI)は、国際層序委員会(ICS)によって開催される層序学の分野で最大級の国際会議で、あらゆる地質時代の層序に関係する研究について発表が行われる会議です。

今回の学会では中部三畳系層状チャートの層序についてのポスター発表を行い、世界各国の専門家に意見を求め議論することができました。また、参加したオーラルセッションでは、各地質時代で注目されているイベントや多用される研究手法など、今後研究の幅を広げ発展させるうえでのヒントを知ることができました。

学会期間中は休憩時間や食事の際に他研究者との雑談も活発に行え、研究者としての心構えや研究のモチベーション、分野の動向など多岐にわたる貴重な情報を得るとともに、英語力を確認することができました。

上述のような経験は国際会議に現地参加しなければ得られず、また今後の研究の糧になるものでした。貴重な機会をいただけたことを感謝申し上げます。



ご自身のポスター発表資料と共に

九州大学基金 INFORMATION

九州大学基金について

九州大学基金では、多くの寄附者のみなさまのご支援により、今回ご紹介している学生を対象にした支援助成事業を年間1億円規模で実施しているほか、20を超えるプロジェクトを実施しています。詳しくは九州大学基金のホームページをご覧ください。

https://kikin.kyushu-u.ac.jp/

九大生応援基金について

九州大学基金の支援メニューの一つで、山川賞、海外派遣、課外活動支援の3つの支援事業を実施しています。

山川賞について

山川健次郎初代総長の名を冠した賞であり、九州大学教育憲章が指向する人間性、社会性、国際性、専門性について優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、次世代を担う若者を育てることを目的とした事業です。



課外活動支援について

サークルなどの課外活動を活性化するため、施設整備・備品調達などを支援します。



1

山川賞受賞を糧に、世界で活躍する環境保全家を目指す。

―山川賞応募のきっかけは?

後藤　山川賞のことは、過去に同賞を受賞された先輩方に聞いて知りました。世界で活躍する環境保全家になるという夢があり、人間性や国際性を重視し、世界をリードする人材を育成するという山川賞の理念が、自分に合っていると感じ挑戦しようと思いました。

―審査ではどのような点をアピールしましたか?

後藤　私は6歳から中学校を卒業するまで米国で生活し、高校はつくばのインターナショナルスクールで国際バカロレアプログラムを履修しました。こうした国際性と、研究テーマの「エコインフォマティクス」の先進性を強く訴えました。エコインフォマティクスとは、生態学とデータサイエンスを融合した研究です。生態系に関するビッグデータをもとに、自然環境を多様な角度から分析するもので、近年、注目されています。

―受賞後はどのような活動を?

後藤　昨年度は生物多様性情報システムを開発する全国規模のプロジェクトに参加しました。農学部附属の演習林で、超音波音響センサーを使用したサウンドスケープ分析や、カメラトラップを用いたフィールド捜査を行い、野生動物の生息密度を推定し絶滅危惧種や外来種の監視を行いました。その後、リモートセンシング(※)という技術に出会い、今は人工衛星やドローンを使って地上の生態系の情報を観測する研究を行っています。



2

―奨学金があったからこそ得られたものは?

後藤　奨学金は、調査や実験に必要な装備品の購入などに使わせてもらいました。高機能なソフトウエアも購入できたので、より精度の高い地理分析ができました。今行っている研究も山川賞の奨学金なしにはできなかったので本当に感謝しています。

―将来のビジョンをお聞かせください

後藤　子どもの頃から自然が好きで、環境保全に関わる仕事をしたいと思っていました。大学院は、リモートセンシング発祥の地、カナダのブリティッシュコロンビア大学に進学予定です。生物多様性保全には、効果的な情報源が必要です。将来はエコインフォマティクス分野で高精度なAI技術を利用した実践的なモデルを構築し、それを活用したアプリケーションを開発したいと思っています。

―受験生や後輩にメッセージを

後藤　後輩の皆さんには、ぜひ山川賞に挑戦してほしいですね。自分が将来どんな研究をしたいのかが見えてきます。学業との両立は大変ですが、挑戦する価値があります。また、海外経験のある高校生の皆さんには、国際性豊かな九州大学は学びやすいと思いますよ。おすすめします。



3

1 生物多様性保全ゾーンの池でヌマガエルを発見し、ツチガエルとの見分け方などを解説する後藤さん
2 農学部附属の演習林に設置されたカメラトラップ。野生動物の生態などを調査
3 里山や人工林のサウンドスケープ分析に用いた音響センサー
(※)対象物に触れることなく、離れたところから物体の形状や性質などを観測する技術